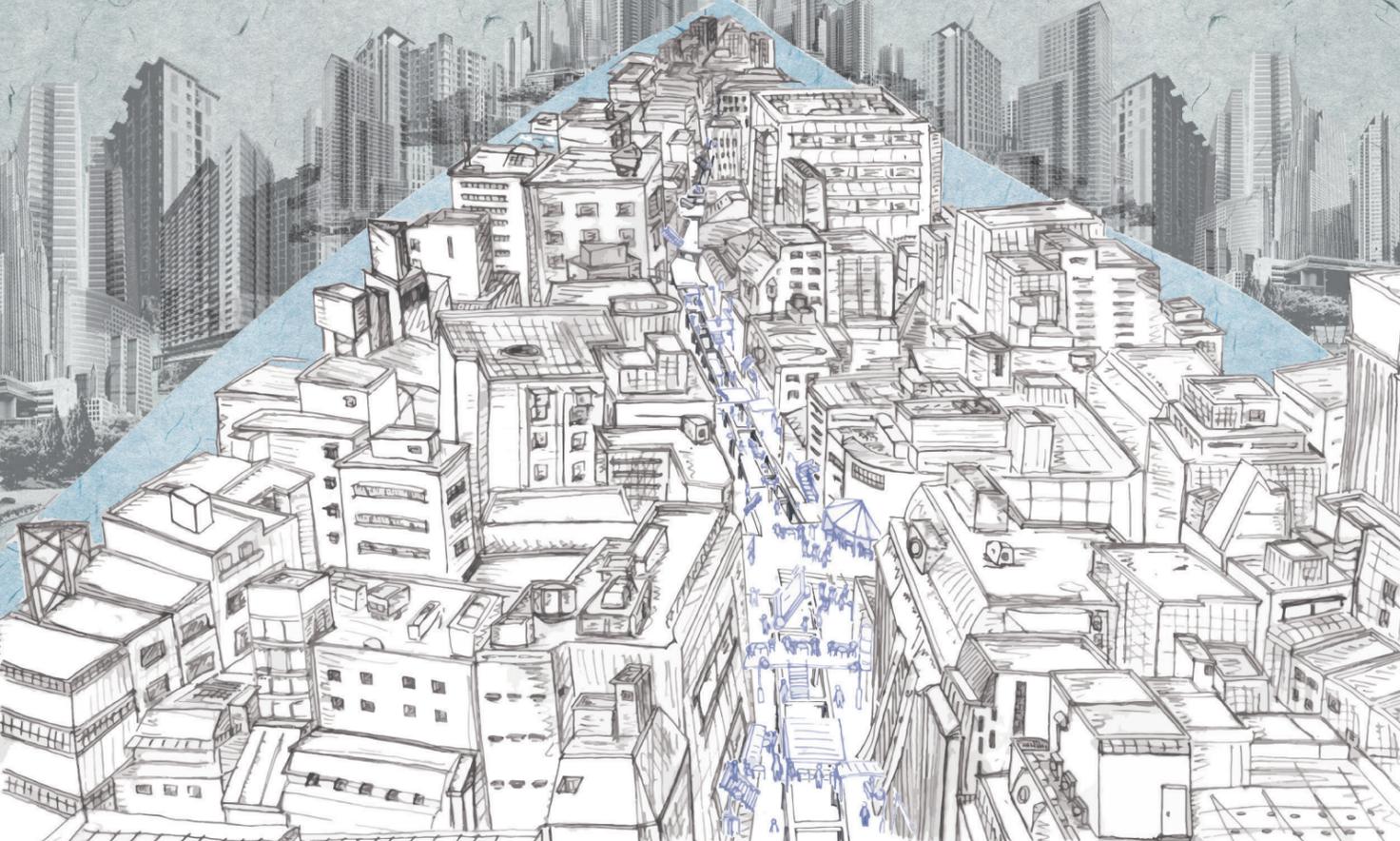


project concept

本プロジェクトは中洲という川に囲まれた地形が作り出す縄張り意識とも言える**自治**という概念を頼りに建築と都市を提案する。中洲というまとまりを持った一つの領域を再考し、都市がシステムという制限とともに際限なく広がって存在するのではなく、中洲を一つの舞台にして生活する風景をこの島のビジョンとして提示する。



background

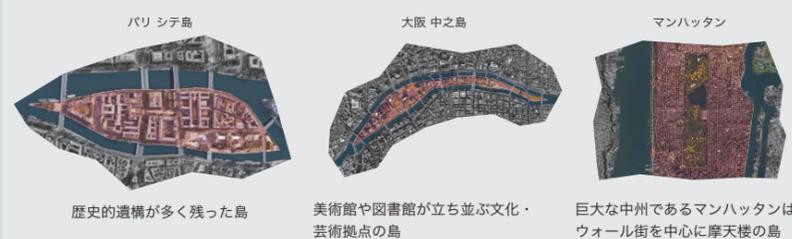
近代が前提とした均質な都市空間は再考すべき時を迎えている。地域の文化や歴史に着目し、他と差異化を試みる運動が各地で頻発していることがそれを示している。都市の地域性とはなんであるのか。また都市が地域性を持つとき、建築が提供する価値とは何か。本提案では均質な都市空間に対するアンチテーゼとして、中洲という地形が作り出す豊かさ（特殊性）を建築として提案する。

○特殊性を失くす広がり



都市は多様な要素の集合である。しかし、際限なく広がる計画道路とそれによってできた街区割は都市の豊かさを均一なものにしてしまっている。

○特殊性を育む閉じた領域

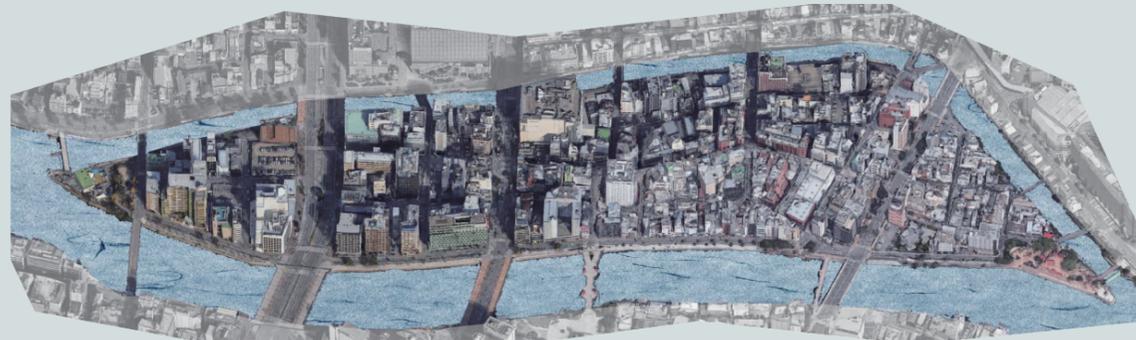


歴史的遺構が多く残った島

美術館や図書館が立ち並び文化・芸術拠点の島

巨大な中洲であるマンハッタンはウォール街を中心に摩天楼の島

四方を川に囲まれた中洲という地形では、川は縁を切る装置として機能し、周辺とは不連続な界限性を持つ。均質に広がった都市の中で、中洲という閉鎖的な地形は周囲に干渉されず地域性（特殊性）を育むことのできるポテンシャルを持つ。そのことから中洲という地形は単に独立しているということだけでなく、それに合ったアイデンティティがその島の豊かさとして存在している。敷地とする福岡の中洲も同様に、この島としての他とは違った空間を模索することができないのではないかと考えた。



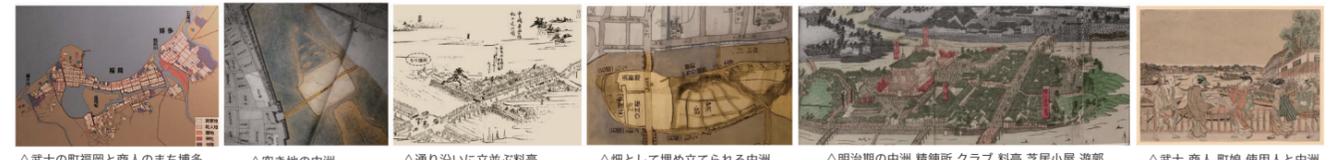
site location: 福岡の中心の島

敷地である中洲はその名の通り中川とは片側の間にできた大きな中洲である。長手約 1500m、短手約 250m の大きさで、福岡の中心である博多駅、天神駅、臨海部からほぼ同距離でそれぞれの中心に位置する。また博多湾や福岡空港など周辺都市と国際的につながりを持つ福岡は多国籍な文化の影響を受けている。コンパクトにまとまった都市は、地元民だけでなく観光客も多数訪れ活気に満ちている。



site history: 悪所として独立した中洲

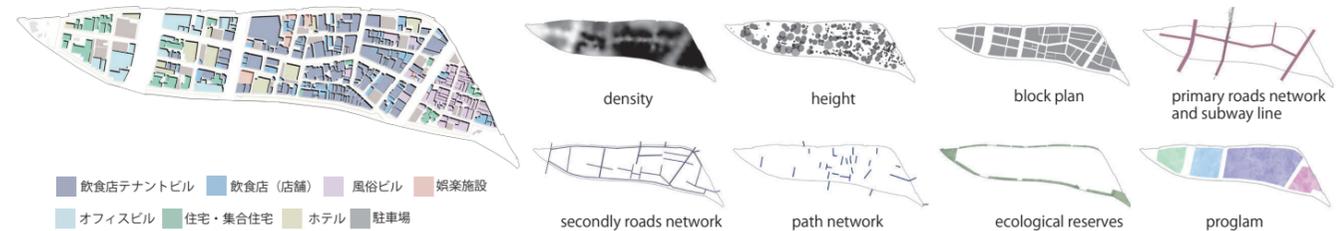
江戸時代、武士の町福岡と商人のまち博多を結ぶ交通の要所として当時であった中洲が整備されたのがこの土地の歴史の始まりである。その頃からこの地域では地形ゆえに、遊郭や料亭、芝居小屋など、都市の悪所的な機能が中洲全体に集まった。武士も商人も関係なく多くの人やものが集まるこの地は、周辺とは無縁の桃源郷であった。



△武士の町福岡と商人のまち博多 △空き地の中洲 △通り沿いに立並ぶ料亭 △畑として埋め立てられる中洲 △明治期の中洲 精練所 クラブ 料亭 芝居小屋 遊郭 △武士 商人 町娘 使用人と中洲

site analysis: 多様性が文化として根ざした島

商業店舗や娯楽店舗、サービス業の店舗が集積した中洲は経済活動の中心である。密度・高さ・プログラム・大小様々なスケールの通りなど、空間として機能としての雑多さがこの島の全体を作っている。



■ 飲食店テナントビル ■ 飲食店 (店舗) ■ 風俗ビル ■ 娯楽施設
■ オフィスビル ■ 住宅・集合住宅 ■ ホテル ■ 駐車場

中洲はいくつもの小さな断片の集合である。それぞれの建物がキャラクターをもち、集合することでプログラムの領域を示す。中洲を横断する大きな道路がこれらのプログラムにははっきりとした境界を作る。この境界を島としての大きな境界に変化させることでまとまりのある一つの中洲が作られるのではないかと考える。



マンション、オフィス街の中洲
北端の中島公園と接続し、老舗料亭が一軒、それ以外はマンションやオフィスビル、駐車場などひらけたランドスケープを持つ。歓楽街の雑多な雰囲気とは一変し他都市のスケールを持つ。居住者は減少し続け、空室の問題を抱えている。

ホテル街の中洲
旅客数の多い福岡はキャリーケースを運びながら市内を移動する人が多く見られる。その中でも中洲は博多と天神の中心であり、観光客にとっては中洲自体が根城のような島であるのではないかと。観光客でさえこの島が自分のもののように見えてくる。

飲食街の中洲
歌舞伎町、札幌のススキノと並ぶ日本の最大歓楽街。ビルのキャラクター、店舗のキャラクター、道に迫り出す広告看板や道にたむろする客引き、対岸から見えるネオンなど、目に写る全てが中洲としての雰囲気を作り出している。

屋台街の中洲
福岡の仮設的な屋台群はもはや観光客のための場所になってしまっているが、中洲は都市的スケールの中を一縫うような小路や貫通路が多数あり、小さな店舗が密集して立ち並び、屋台文化は飲食店の集合の形式のなかに生きている。

風俗街の中洲
川によって縁が切れ、周辺を柵と植栽に覆われたこの場所はまさに遊里としての中洲の歴史と文化を継承しているような場所である。しかし、都市の侵入はこの中洲のアイデンティティを敬遠するようにさらに断絶した空間にしてしまっている。



objective : 中洲の様相 (全体性) をつくる

中洲は島として独立しているという地形的な魅力に加えて、道を占拠して立ち並ぶ屋台や独立した領域を持つ風俗街、飲食店の密度などに代表されるように、この島を自分のものとして獲得していくような活動が、部分的な空間として現れている。そのような中洲のアイデンティティを自治として捉え、設計の手がかりとする。雑多さの中にある自治という一つの曖昧なテーマのもとで全体を計画することで、部分が全体を形作るような中洲の様相を提案する。



ブラジル ファベラ



タイ メークロン市場



道を占拠して立ち並ぶ屋台

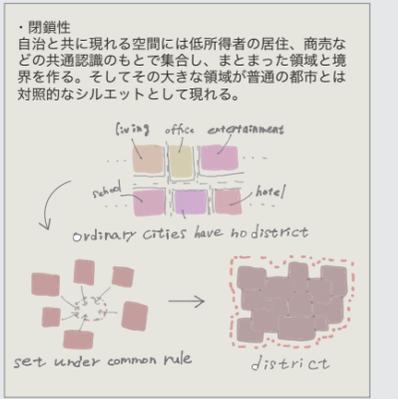
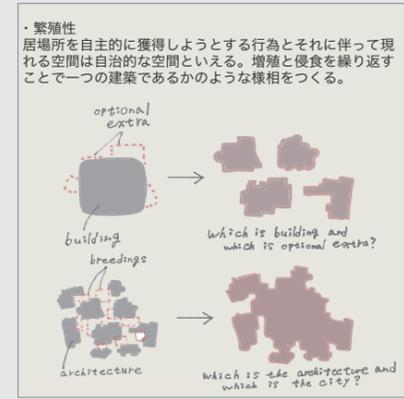
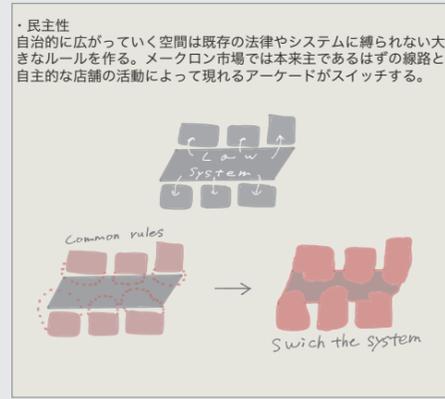


道に迫り出した看板や設備

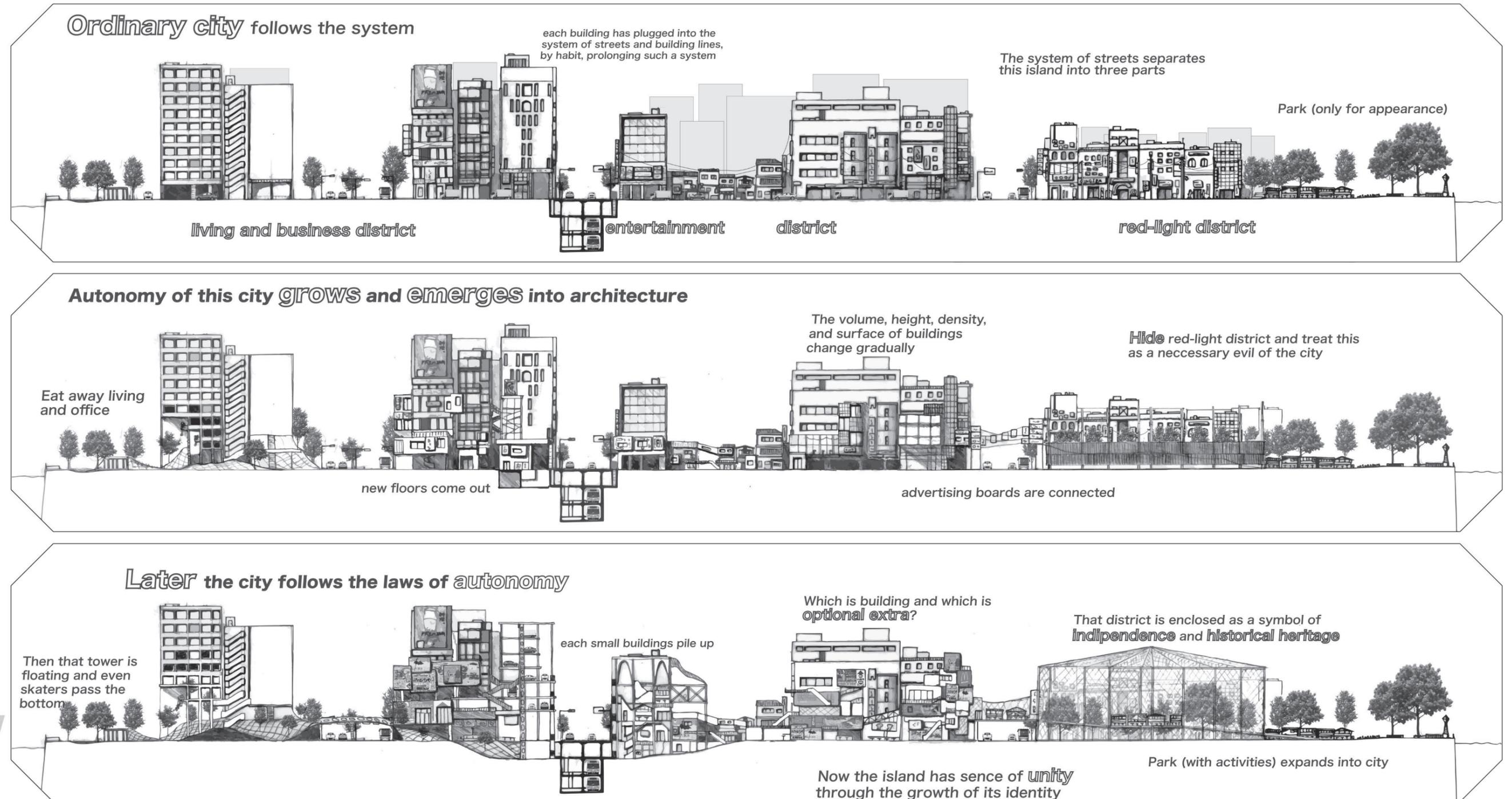


風俗街の閉鎖性

ここでいう自治とは、自治組織や組合といった公的なものではなく、縄張り意識や個人の自主性の伴うものであり、極めて私的な自治である。



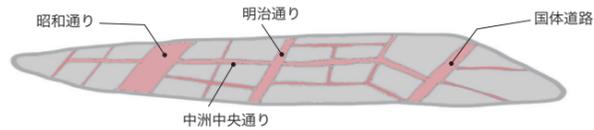
imagination drawing:自治の空間化による様相の変容



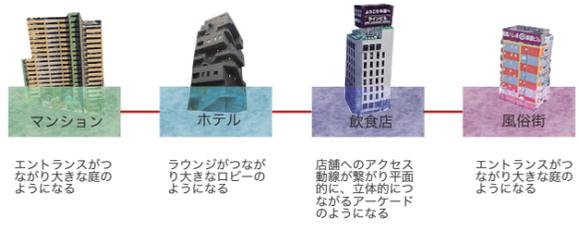
method : 中洲のストラクチャーを設計する

○master plan

・道路を敷地と捉える
 現在の中洲は福岡から博多への都市の連続により島としてのアイデンティティを失っている。しかし、屋台や飲食店、風俗店のように、中洲としてのアイデンティティは道の上にはみ出すように溢れている。中洲の中心を通る道の上に島の背骨のように建築を設計する。

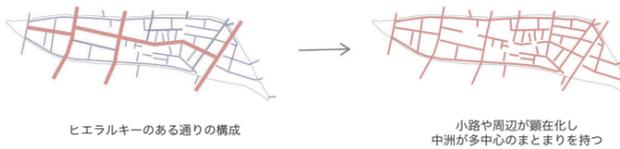


・分断したプログラムを接続させる
 横断する計画道路によって分断された領域に対してそれぞれの自治を支えるストラクチャーとなるような建築を計画し、長手方向に連続させることで中洲を一つの舞台として生活する風景をつくる。



マンション エントランスがつながり大きな庭のようになる
 ホテル ラウンジがつながり大きなロビーのようになる
 飲食店 店舗へのアクセス動線が繋がって平面的に、立体的につながるアーケードのようになる
 風俗街 エントランスがつながり大きな庭のようになる

・中心を無くす
 道路と建築がスイッチし、分断されたプログラムを接続させることで都市計画によって作られた中心が侵食される。それによって中洲に点在する小さな風景が連続し多中心的な島になる。

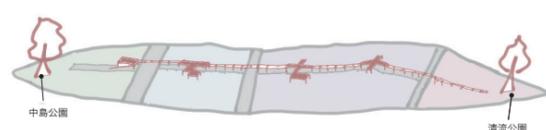


ヒエラルキーのある通りの構成 → 小路や周辺が顕在化し中洲が多中心のまとまりを持つ

○diagram

・phase 1 中央通りに建築と架構が伸びる

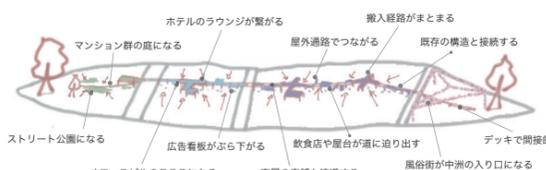
現在の中洲の中心は中洲を横断する3本の大通りに唯一接続し、飲食街を縦断するアーケードのように計画された中洲中央通りである。この道路を覆うようにそれぞれのプログラムに合わせたコアを部分的に計画することで都市的な長さが失われる。さらにそれぞれの建築が架構でつながることで自治と計画理念がスイッチし周辺の既存に変化を与える。



中央通りを覆うように建築と架構が伸びる

・phase 2 建築と架構を拠り所にして中洲の小さな断片がつながる

配置される建築は周辺の既存と連続性を持つように計画される。さらに道路による制限から自由になった中洲はその建築や架構を頼りに繁殖していく。既存の計画原理によって形作られるアーケードは、中洲の活動が連続することで現れるアーケードに上書きされる。



空洞だった道路に活動があふれ出す

・phase 3 島全体に活動が波及する

中洲の自治的な活動によって建築の周辺に変化が現れ、やがてそれが島全体に波及することで自治をストラクチャーとした一つの建築のようなシルエットを持つようになる。



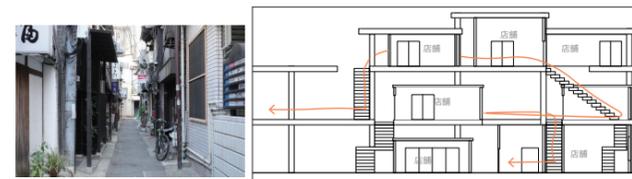
中洲全体が公園・庭のように 中洲全体が歴史と文化を持ったミュージアムのように

progress: 中洲に波及する変化

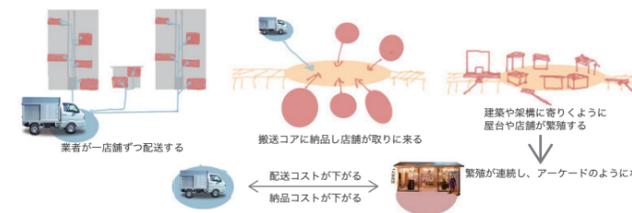
・空間体験の変化
 空間として一つのテーマを持ったまとまりとなることで、断片的に存在していた様々な活動が中洲を大きな舞台とした一つの出来事として認知されるようになる。それにより、意識の中でも中洲というシルエットが浮かび上がるようになる。



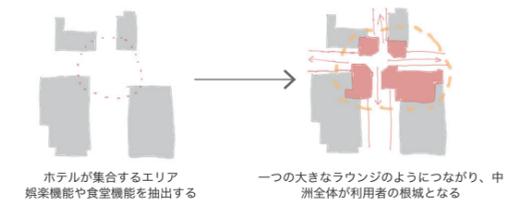
・店舗の集合形態の変化
 架構を頼りにして木造密集地の店舗の集合形態が変化する。平面的な奥性が立体的に展開し、中洲全体に連続する。



・搬入経路の変化
 屋間に中央通りに業者の車が並び一つ一つの店舗に納品するのではなく、搬入庫としてのプログラムを建築に設計することで合理性が増す。



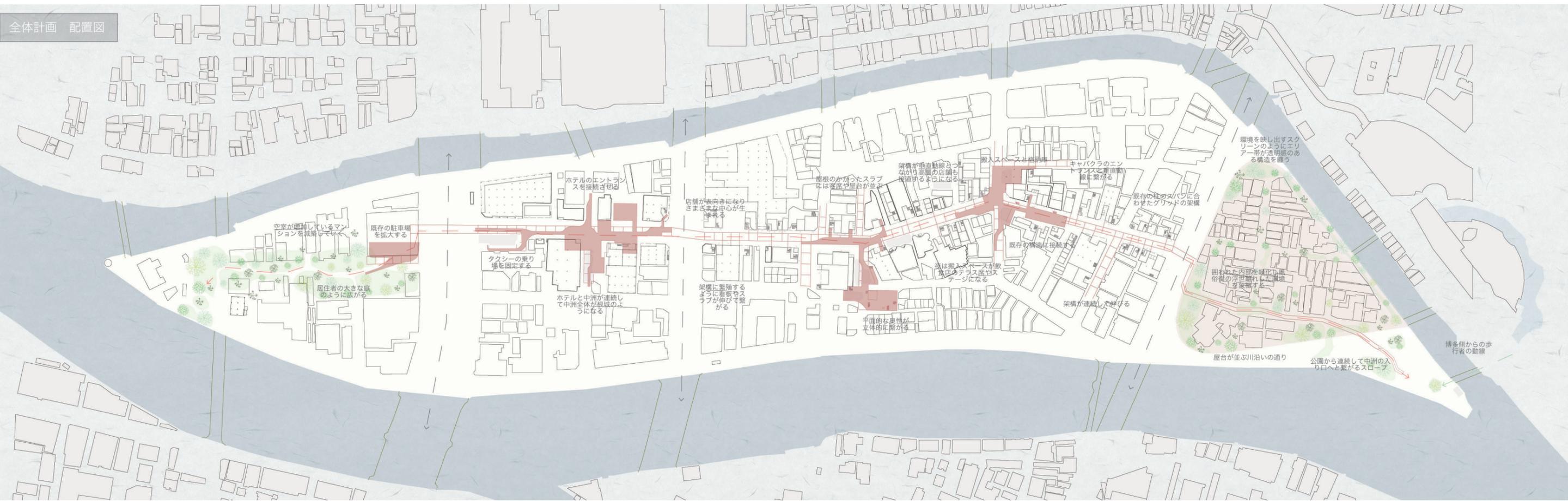
・宿泊施設の変化
 一つ一つのホテルに設けられた娯楽機能や食堂機能を接続させ、一つの大きなラウンジを作る。利用者は中洲全体が根城のように振る舞う。



・公園と居住環境の変化
 大通りに面した既存の駐車場を拡張しマンションの駐車スペースを賄うことで道路を公園化する。既存の一部を減築することで閑散としたマンション街は公園としての賑わいを持つようになる



・風俗街の印象の変化
 風俗街は中洲の文化と歴史の集積である。その存在を必要悪として扱うのではなく、風俗街の持つ閉鎖的な環境を建築化することで、風俗街が中洲の顔、入り口となるように変化する。





飲食街部分平面2F



飲食街部分平面1F

conclusion

本提案では、都市が地域性を持つということに対し建築が提供しうる価値として、中洲のそれぞれの領域に対して自治活動を誘発するストラクチャーを与えることを試みた。このストラクチャーに対して中洲を自分のものとして獲得していくような活動が作用することで、この島の自治という特殊性からなる都市が空間として現れる。またこの変化の連鎖が、雑多性と多様性を伴った中洲の豊かさをもたらすとともに、島としての様相(全体性)の発現つなげると考える。

本提案は、自治という中洲の特殊性に着目した建築の可能性の提示であり、中洲の都市としてのビジョンを示すものである。

